

平成25年度研究成果報告書《平成25年度教育課程研究指定校事業》

都道府県・指定都市番号	59	都道府県・指定都市名	京都市
学校名（児童数）	京都市立岩倉北小学校（303名）		

（本研究に係る問い合わせ先）

所在地：京都府京都市左京区岩倉忠在地町5番地

電話番号：電話（075）721-5618 FAX（075）722-0690

研究内容等を掲載しているホームページのURL：e-mail iwakurakita-s@edu.city.kyoto.jp

【研究成果のポイント】

- 研究課題番号：2小学校
- 研究対象教科等：社会科
- 研究のキーワード：
 - ①将来に夢や見通しがもてる産業学習の構築
 - ②現在の自分たちの生活や国家・社会の発展の基盤が見える歴史学習の構築
 - ③現在及び将来の発展に生かそうとする歴史学習の構築
- 研究成果のポイント
 - ①我が国の産業に対して前向きな捉え方を育むことができるか。
 - ②歴史的事象と現在の社会の成り立ちとをつなげて考えることができるか。
 - ③歴史学習を通して、今後の社会や自らの生き方を問い直すことができるか。

【研究の目的、研究内容】

（1）研究主題

問題解決的な学習を通して、基礎的・基本的な知識・技能を習得し、社会的な事象について自ら考えたことを交流することにより、社会的な見方や考え方を養う。
～小学校社会科学学習における教材・単元構成・学習展開の在り方について～

（2）研究主題設定の理由

本校は、社会科を中心に子どもの思考・判断・表現力の育成、普通授業の充実の研究に取り組み5年目となる。授業研究に向かう体制が整備・充実してきており、「子どもの生きる力の育成（知・徳・体の育成）」を子どもの姿で実現することで証明しつつあるが、さらなる授業の充実と学力向上をすすめることが重点課題である。

そこで下記の課題を重点課題として、現行指導要領における社会科学学習の教材・カリキュラム・学習展開等の在り方についての研究を推進し、成果と課題をまとめた上で、その成果を5・6学年の他教材や1～4学年の授業の充実に向けた取組に活かすことをねらいとした。

〈重点課題〉

- ①第5学年の内容(2)「我が国の農業や水産業」と内容(3)「我が国の工業生産」の学習において、新しい産業界の動きや技術開発、構造変化などに対応した教材及びカリキュラムの研究
- ②第6学年の内容(1)「我が国の歴史上の主な事象」の学習において、社会的な見方や考えを養うとともに、歴史を学ぶ意味を考えるようにする授業のあり方（教材、学習展開等）の研究

（3）研究体制

- ・公募課題2社会科①②について、校長・教務主任・研究部・高学年部会・社会科部会が中心となり研究を進める。
- ・研究部は、校長・教頭・教務主任・研究主任及び各学年1名の研究委員で構成する。
- ・教育関係者を指導助言者として招くなどして研究の幅を広げ充実を図る。



(4) 1年間の主な取組の経過

平成25年	4月10日	重点課題と研究の方向についての共通理解
	7月4日	実践研究① 教科調査官先生の指導を受ける⇒第1次総括
	7月11日	実践研究②
	10月11日	実践研究③ 教科調査官先生の指導を受ける⇒第2次総括
	11月13日	研究発表会にて実践公開(実践研究④)
	11月28日	重点課題の総括

(5) 具体的な研究内容・方法、研究を進める上での工夫点等

○自己実現と社会貢献

・教材研究の視点として、「自己の目標に向かいつつ、社会貢献を成している」事例を教材化した。例えば5年生の産業学習では、自動車工場が環境を良くしようとしている取組を取り上げ、それには、環境問題に対処しつつ車を乗り続けられる(=つくり続けられる)社会を目指していることに気付くことができた。6年生の歴史学習では、文化や文化遺産、あるいは明治維新や戦後復興など、その時代を懸命に生きた人物の業績や文化財が今の社会をつくり上げていることに気付くことができた。

○子供の問題意識の連続性

・単元構想の視点として、「子供の問題意識の連続性」を意識した。中でも子供の見方・考え方を広げる学習を行う場合、単元の中の授業の位置付けを単元末だけでなく、問題意識のつながりを意識して単元途中に組み入れることもあった。例えば6年生の戦争単元では、満州事変から日中戦争へと向かう情勢の中で、一斉に盛り立てるメディアと相対し、小日本主義を唱え、戦争の拡大を憂慮した石橋湛山の主張について、10時間中の第4時で考えた。「戦争の起こり」の場面にこの学習を取り入れることで、「このあとの戦争はどのように進んでいくのか」といった問題意識を連続させて学習を進めていくことができた。

○学んだことを生かして考える

・自らの考えや判断をもつ視点として、「学んだことを生かす」ことを意識した。例えば5年生の工場の立地条件について考える学習では、東北に工場を建てる理由について、既習した人口や運輸、販売といった条件を踏まえながら、「なぜ」に対する理由を予想することができた。

【研究成果とその意義等】

(1) 研究成果

5年生の産業学習では、関係機関が、我が国のもつ高度な技術力で社会を支えているだけでなく、よりグローバルな視点で社会貢献をすることで、持続可能で理想的な社会(=会社)の実現という未来的な思考をもっている側面に気付くことができた。我が国の産業に誇りを感じる子供が増えてきた。

6年生の歴史学習では、歴史的事象の現在的価値を問うたり、事象そのものの価値を判断したりする機会を度々設けることで、歴史的事象に対して自らの価値付けを行い、表現する子供が増えてきた。

(2) 研究成果の意義等

産業学習でいえば、今を懸命に生きる人々への感謝や尊敬の念を、歴史学習でいえば、過去を懸命に生きた人々への感謝や尊敬の念を抱くことといった、いわゆる「態度」面を育むことができる。そのような学習を積み重ねていくことによって、子供たちのこれから生きていくことへの意欲をかきたて、今を生きる自分や今の社会を大切にしていこうとする心情を社会科の学習を通して育むことができるのではないかという可能性を今回の研究を通して感じている。

(3) 指定期間終了後の取組

今年度の研究の成果をもとに、来年度も、社会科を柱として校内研究をすすめる。中学年の社会科や高学年の歴史学習、産業学習以外の内容において本研究のエッセンスを波及させる。

来年度、本校は全国小学校社会科研究協議会京都大会の会場校として研究授業を公開するが、5年の産業学習と6年の歴史学習において今年度の取組をさらに充実させ、来場する多くの教育関係者に研究の成果を提案できるようにする。